

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2018

「豊かに生きる ～大学は知の宝庫～」

第7回 12/3 (月) 11:00～12:30 報告

文学に学ぶワーク・ライフ・バランスとエイジング

講師 遠藤雅子 (本学教授)

於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

平成30年度第7回公開講座(受講者18名)が12月3日に開催されました。総合福祉学
科教授の遠藤雅子先生による「文学に学ぶワーク・ライフ・バランスとエイジング」と題
された講演は、まず、“人生100年時代”から始まりました。

寿命が(100歳前後まで)今後伸びていくにあたって、国・組織・個人がライフコースの
見直しを迫られています。リンダ・グラットン教授の『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』
という本では、従来の年齢で区切られた人生のステージ[教育⇒仕事⇒引退]という区切
りではなく、それぞれのタイミングで自由に行き来できる関係性が重要であると指摘され
ています。例えば、週3日は仕事・週1日はボランティア・週1日はNPO活動というよう
に、異なる活動を並行して行うような多様なステージがあっていいというものです。その
ために、特に現役世代は自らの主体性を持ってキャリア開発に取り組むことが求められて
います。多様な“生き方・働き方”を支える考え方として重要なのが、WLB(ワーク・ライ
フ・バランス)です。老いも若きも、生計を維持し働きがいを感じられる仕事と出会い、
子育てや介護、地域活動や自己啓発も充実させてゆこうという考え方です。

そのような状況を踏まえて、藤沢周平原作『たそがれ清兵衛』を観ながら、現代社会の
課題を考えてみました。時は幕末、井口清兵衛は妻に先だたれ、老母の世話と二人の娘の
養育と借金返済の為、質素な生活をしていました。自身の身なりを気遣うことなく、夕刻
には同僚とのつきあいも断り帰宅する育メン清兵衛は、“たそがれ”とあだ名がつけられま
した。この映画では、上司のハラスメント的な発言や、親族の痴ほうへの無理解、虐待に
つながりかねない発言、女子には学門不要という考え方に対する批判があらわれています。
私たちは日々の暮らしに追われがちですが、先人の名言“かつて来た道”と“やがてゆく
道”を笑うことなく、他者を思いやる気持ちを大事にしたいものです。そこで、文学にお
ける“老い”の扱われ方を思い出しながら、年齢の重ね方として、アンチではなくスマー
トなエイジングをとという提案について考えてみました。老いを拒絶するのではなく、経年
変化に賢く対処し、個人・社会が知的に成熟してゆくことを目指す考え方です。人生100
年時代は、熟考と冒険のバランスにおいては浦島太郎に学び、シンデレラのように労働と
遊びのバランスをとり、自分や他人、地球に対する思いやりある人生の構築こそが求めら
れているのではないのでしょうか。あいにくの天気で寒い一日でしたが、お集りいただいた
方たちからは多くの頷きと面白かったというアンケート結果をいただきました。

【講座の様子】

